

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	2・3・4	後期	選択	はい	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生から4年生までの総合人間科学の授業であるため、授業の最初にアジアへの理解や学習準備状況の確認アンケートを行い、不足の項目に△△を新たに加えた。②国際的視野に立ってアジアのことを幅広く学び、考えながら、アジア社会文化に触れて行った。15回授業にそれぞれ異なる内容の勉強により、より深く異文化理解をしてもらった。③アジアの歴史文化に関心を向上させるために、11回目にレポートを提出してもらっていた。④学習状況を確認するために15回目にテストを行い、学生の勉強意欲を高めるためである。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は93点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達した。目標別に見ると、知識理解に関しては学生による授業評価においては授業の課題以外に具体的取り組んで、学習はPCで調べたり、学生のそれぞれの関心問題ーアジアの教育などに関心問題を調べたりしたことが示された。これは学生が思考判断で何が問われているかを提出されたレポートは幅広い領域に亘った豊富な内容であった。ただし、授業の課題以外に学習していない理由については「無回答」等の自己評価が示された。これは、勉強に積極的、自覚していなかったことが考えられる。特に「図書館の利用」などについては不足していたことは次年度に向けて明確に指示、指導しなければならないという反省点が考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の科目であり、総合的な視点と豊かな人間性を養うための教養教育科目の位置づけ、学習者の国際的社會文化を修得して国際的な視野を広げ、多様化、多様性を複眼的に備える人間の育成を目的としており、内容的には妥当であると考え。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量評価において、授業の課題以外に学習していない理由としては、配布された資料がしなかった。図書館の利用、インターネット利用はしなかった等が挙げられた。次年度に向けては、まず学習量・範囲を具体的に示したうえで、学習時間。方法を事前に提示して検討を加えて授業に参加するように促していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学にあたる本科目の位置付から教養教育グローバル社会に臨んでいる大学生としての教養を得ること。アジアの歴史と文化を学習すると同時に、関連する多様な社会などを理解してもらうこと。以上から毎回の狙いを具体的に示すこと。可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提出できるように、工夫を凝らしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	2・3・4	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①日々変化する環境問題や国際関係を取り上げるために、教科書は使用せず、適時レジュメと参考資料を配布した。②理解の難しい用語や組織、団体、事象に関しては新聞記事、インターネット、動画等を利用し、学生が取り組みやすいように工夫した。③授業内で押さえておきたい重要な項目に関しては、学生同士で積極的に議論をさせ答えを導き出し、理解と定着が確実にいえるように指導した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は66点、追再試対象者は5名であった。標準偏差値はSは2名、Aは2名、Bは1名、Cは2名、Dは3名であった。高得点と低得点の差が開き、全体的な平均点が落ちた。授業で取り上げた環境問題や国際関係等に高い関心を示した学生がいた反面、無関心な学生も多かったことが反映されている。受講動機においても「関心のある内容である」と回答した学生がいる一方、「単位取得の為」に受講した学生が多かったことがこのような結果となったと思われる。英語学科における学生の国際情勢に関する関心の高さは必須であるため、興味を持てるような内容や指導の工夫が必要であったと思われる。しかし、DPにおいて「自分なりの目標の達成」「知識の確認、修正、新たに得る」「視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力」「的確に判断する力」「必要となる技術」等で概ね高い評価を示した学生が多かった。このDPの結果から選択科目が学生にとって新たな視点や考え方を養う良い機会であると捉え、興味や関心を持てるような工夫を授業に導入し、地道な指導を行うことが必要であると実感した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性：英語学科のCPに明記されているように「現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける」目的として、本科目は目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP:行動目標からみた内容的妥当性:学生は授業内容を通して現代の国際関係等への知識と理解を習得することが要求され、DPの全項目は全般的に高評価であった。シラバスには図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることを明記しているが、これらを活用した学生が皆無であった。シラバスの内容を徹底化するためにも、学生に積極的な姿勢を喚起する指導の必要性を痛感した。DPの「職業倫理」「職業選択の参考」では高い評価を示す学生が多く、英語学科の学生の学習ニーズにも合った内容となっていたと考えられる。全般的にクラスの雰囲気は不真面目な学生の行動が目立ってはいたが、真面目に取り組む学生が大半であり、良好で、真面目に学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:全項目に関して概ね多数の学生が高く評価していた。最新の情報を教材として取り上げ、また海外ボランティアやNGOで活躍する日本人の活動等を紹介したことが学生の関心を高めた結果と思われる。さらに国内外の諸問題をグループで話し合い、発表するなど学生に参加する機会を務めて作った結果が数字に表れていると思われる。②学習量の評価:授業に参加するための予習、復習をしなかった学生が大半であることから、授業中での復習を兼ねた小テストやレポートの提出を検討している。③学習のための情報利用、図書館利用:受講動機で「関心のある内容である」と全員が回答し、シラバスを通して講義の内容を理解して臨んだ学生にとっては満足度の高い講義となったと思われる。図書館利用に関しては利用者数が少数であったことから、図書館利用を促す取り組みを行う必要性を強く感じた。また国内外の事象を学習する観点から、メディア等を利用した情報収集が学習内容の一つであることを指導強化する必要性を感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	選択科目は単位数を確保する目的で受講する学生が多いため、受講動機で「関心のある内容である」を挙げている学生と「単位取得」の為に受講する学生の間には関心の度合いが異なり、授業態度や成績に大きな開きが生じた。このことを踏まえて、オリエンテーションでは授業の内容や狙いを的確に伝え、学生の国内外の事象に対する関心を深めるための良い機会と捉え、授業形式の適時変化やメディアからの情報収集や図書館利用の強化を促したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
韓国の社会と文化	2・3・4	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は韓国に関心をもって出席している学生が多いため、基礎的な知識を教授するだけの授業にとどまらず、彼女たちがもつ知識をどう発展させ、より深く韓国文化の理解につなげていくかの点を重視して授業の構成を考えた。発表テーマから自分たちで決めて行うプレゼン授業を通して、彼女たちの韓国文化への理解や、他国文化との比較を通じて、日本文化を再発見してもらうことも授業のサブテーマとした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	『到達度自己評価』の結果データからして、学生たちの能力を引き出すことができた実感している。また、『学びを深めたい意欲』についても、受身の授業ではなくプレゼンといった学生主体の授業形式を取り入れたことによって、学生の知的好奇心や探究心を大きく刺激することができたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この講義は専門分野における基礎的知識と運用能力、さらには他者と協働し国内外で活躍できる確かなコミュニケーション能力を身につけているかどうかといった観点から評価されるものであるが、本講義は学生たち主体の発表や意見交換を中心に構成されており、カリキュラムマップにおける位置づけからみた内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、「授業の質の評価」の結果データからみて、学生に大きな不満はなかったように思われる。またプレゼン主体の授業形式のわりに図書館利用の割合は低いが、学生たちがもつ最新の情報雑誌からの引用や、実際に韓国旅行に行ったときの体験談などをもとにして、プレゼン資料を作成していたことが原因と考えられる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この授業を受ける学生は、近年の韓国ブームの影響によって最新の韓国事情に詳しい人が多く受講していたのが特徴的であった。そのため、彼女たちのもつ韓国に関する断片的な知識を、一つのテーマごとに学術的にとらえ、その背景理解や日本文化との比較などを通して、単なるブームとしてではなく、真の韓国理解につながるような授業を心がけ、彼女たちも楽しんで授業に参加してくれていたと感じている。韓国文化に関して、同年代の学生同士の情報共有も可能となったと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語学概論	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力教育検定試験の問題回答、という流れで進めた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度がある程度高い授業であったと判断される。「ついていくのが大変だった」が「分かりやすかった」という記述から、「ある程度」という判断を下した。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自由記述を見ると、内容的に難しかったものの、本授業の目標は達成できたと考えられる。改善課題としては、履修生の意欲を継続させるための、授業でカバーする内容の量と質のレベル調整が考えられる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。改善課題としては、履修生に合わせた、授業でカバーする内容の量と質のレベル調整が考えられる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、および「この授業が一番好き」や「一番面白い」等の自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育に関して「教室運営」をテーマとして選び、体験型で進めた本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	受講生は13名であったが、できるだけ個々の学生と対話する時間が取れるように努めた。このことは継続していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語教育に関して、「教室運営」をテーマとして選び、体験型で進めた今学期の授業については、高く評価していると考えている。今回の授業で実現した、受講生とのやり取りの回数の維持を、今後も実現していきたいと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業のDVDを作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをグループで共有する」というThink-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された			達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育実習の前段階としての本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育実習の前段階としての本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	マイクロ・ティーチングを不安に感じる学生がいることがある程度予想されたが、次学期の日本語教育実習に向けて越えなければならない適度なハードルであったと考える。学生の自由記述にも「いい経験だと思いました」「多くのことを学びました」という意見がみられるので、この形式を継続していこうと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語教育の前段階の本授業については、高く評価していいと考えている。授業づくりを不安に感じる学生に関しては、注意深くモニターし、必要に応じて足場かけを行いたいと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人という規模になる。 ③「『教育原理』なのに、教育のことは関係ないことを説明されて、あまり理解できませんでした。」という意見があったが、人間理解が教育の基本原理だというような「常識」をていねいに説明しなくてはならない
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった			やや達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験成績の平均は69.35であり、全体の平均点72.45に比して3.10ポイント低であった。全体のポイントも昨年より6.78下がっている。問題の問うていることに対して答えていない答案が多く、それが低下の原因である。それは全体にその傾向だったので下がることは仕方ないが、他学科よりもその低下度は大きい。理想的と言える80点以上の学生は18名中4名であった。 学生の自己評価でも、各項目に於いて「少しそうでない」「全くそうでない」というところに6～9人おり、到達度の平均値は各項目2.4～3.0と昨年度よりも1.5ポイントほど激減している。理由は「授業の内容が濃いのはいいのですが、自分の答えがどうまちがっているのか、模範解答などを配布してほしかったです。」というように「正解」を示さなかったことに対する不満が理由であった。「正解」についての誤解が大きかった。 授業に対する評価も2.2～3.1であり、学生の評価は今年の現象として異常に低いと思う。その理由は今年の冬、私が強度の血管運動性鼻炎に罹り、マスクをしての講義だった。そのことについて「●声が小さく、更にマイクから離れて話すので聞き取りにくい。」という意見も他学科も含めて多くあり、次年度からは罹病しないように心がけたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	4. でも述べたが、「問題を出題して、私たちにそれぞれ意見を書かせて提出。というのが授業の一連の流れだけど、次の授業で返ってきたあと、先生のコメントはあるが、答えや正解・解説がないからよくわからないまま終わってしまうのが残念でした。マイクを使って講義をするのはすごくよいけど、声が小さすぎてなにを話しているのかわかりにくかったです。」というように「正解」を教えてもらいたがっている学生に対して事前に説明する必要があるだろう。 なお今学期の受講生に対しては多くの意見に対しての回答を新学期（教職概論）の時間に配布し、理解を促している。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	文部科学省の言う「主体的・対話的で深い学び」というのはかなり学生のこれまでの学びの状況とかけ離れている。また、「正解のない問い」という昨今の動向についても、「何を書いても正解」という勘違いをしているようなので、「正解はいくつもあり、まちがいもある」とただしているところである。来年度は学生との対話的姿勢が顕在化するような工夫と、学生がアクティブに自分自身の「正解」を自己評価できる方法を考えたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	達成されなかった		どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○昨年度と比較して秀優良が減少し、可37.5%から53.8%、不可6.2%から23.1%と増加した。 ○昨年度は上位層と下位層が二極化する傾向が見られたが、本年度はほとんど下位層に集中している。 ○明確に指示された範囲の知識理解項目での失点が目立った。 ○論述式の思考判断が求められる項目では、論述の基礎となる重要項目の定着ができていないケースが目立った。 ○可の学生は授業中に範囲を明確に予告した基礎的問題の正答率が低く、授業参加態度だけでなく試験前の自己学習に問題があるのかもしれない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	他学科との比較で平均点が最大17ポイント開いており、英語学科としての達成度は不十分と言える。学科の特性に依存しない内容であること、昨年度の英語学科の 学生と比較しても成績が低下していることを考えると、今年度の学生の取り組み姿勢に問題を抱えていたと推測される。 複数学科の学生が同時に受講する授業において、特定学科のみを取り上げての指導は簡単ではない。先輩たちの事例を自分の問題として受け止められるような指 導を行いたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	年度により学科の成績が大きく変動するため、出題難易度や指導方法を大きく変えることはできない。特に本年度は平均点が90点の学科もあるため、下位層の学 生を引き上げる指導が必要となる。毎回の授業における振り返りなど、授業内容の整理や定着といった基本的な項目をより丁寧に行っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成されなかった	達成されなかった			やや達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	英語学科の平均点は63.75であり、全体の平均値68.63を4.88ポイント下まわる。非常によくなかった。また、80点以上は1人もいなかった。学生の自己評価もほとんどの項目で2.6と低く、11名中5名が「全くそうでない」に集中しているのも実感としてよくなかったのだと思う。これは昨年とは全く逆の傾向を示している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については「全くそうでない」に全ての項目で11人中5名前後となっており、平均値も2.5～2.6であった。 学生からは「まず、マイクを使っているにもかかわらず声が全く聞こえず、何を話しているのか聞き取ることができません。先生としては聞かない方が悪いと思われるかもしれませんが、なぜマイクを使用しているのに聞こえないということが起こるのでしょうか。これは私たちの態度が悪いからではないと思います。本当に静かな教室なのに聞こえません。先生に、教室にいる全員に声を届けようという意思がないのだと思います。不快です。」という声があったが、今学期は深刻な血管運動性鼻炎に罹ったため、マスクをしての講義となったことが問題であったと思う。次年度は罹病しないように心がけたい。 また「実際の授業で学習指導要領の内容についての説明はほとんどなかったのに、テストの時に学習指導要領ばかり出していてわからなくて困った。」という意見があったが、過半の時間を学習指導要領の解説に費やしていたので理解に苦しむところであった。しかし、「もう少しわかりやすく説明してほしい」という意見もあったのを見ると、説明が不十分であったのかもしれない。ていねいな説明を心がけたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	かなり達成状況はよくなかった。一方的にならないような、講義の工夫が必要なのかもしれない。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法 I	2	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。意欲的な学生が多いので、なるべく学生からの意見を引き出しながら授業を進めていけるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.0点であり、再試対象者は0名であった。ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。 学生による到達度自己評価は、1名の学生が「少しそうでないと思う」、2名の学生が「まあまあそうだと思う」と回答しているのを除けば、すべての項目について「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、この点からも教育目標は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、1名の学生が二つの項目について「少しそうでない と思う」と答えている以外はすべての項目について「まあまあそう だと思う」「わりにそう だと思う」「かなりそう だと思う」と回答している ので、授業の進め方については概ね適切であったと考える。一方で、 学習量の評価については、ほぼ毎回課題を課しており、授業 評価アンケートの結果では1回30分程度の準備や復習を行って いない学生は1名だけであった。この点については、授業中の説 明などを丁寧に行うことなど工夫した成果が出てきていると考 える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	年度によって受講生の数や教職が第一志望の学生の数にばらつきがあるため、 学生の状況を考慮して授業の方法を工夫する必要があると考えている。 意欲の高い学生が多かったため、学生の参加の度合いも高く、理解度も高かった。 この科目は「英語教科教育法Ⅱ」「英語教科教育法Ⅳ」へと続いていくので、 今回明らかに なったことを踏まえ、授業の方法について工夫していきたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	発音の教え方、「教室運営」の仕方、テストの作成方法、アーティキュレーション(連携)の作り方など、英語科教育法Ⅱでカバーしなかった内容に焦点を当て、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら授業を進めた。その結果、英語科教育法Ⅱと英語科教育法Ⅲを受講することにより、英語教育に関する基本的な知識を得ることを可能にした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートでは高い評価を得ており、そのことは[毎回学びが多い]「とてもためになる授業」「先生の下で教職を履修できて幸せです」などの自由記述でも裏付けられているので、「達成された」という判断に至った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート、そして自由記述の内容からも、学生の満足度が高い授業であると判断されるので、内容的妥当性は高いと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については特に問題ないと思われる。「具体的」「実践的」であることに、こだわり続けたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年度同様、授業のデザイン・運営は良好であったと考えている。2019年度から教職の授業を外れることになったが、再び担当することになった場合は、さらなる向上をめざしたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	再試対象者は0名であり、全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。 学生による到達度自己評価は、どの項目についても全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、この点からも教育目標は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績が高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、どの項目についても全員が「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね目標は達成できたと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	年度によって受講生の数や教職が第一志望の学生の数にばらつきがあるため、学生の状況を考慮して授業の方法を工夫する必要があると考えている。来年度履修する予定の学生の状況を考慮し、今回明らかになったことを踏まえ、学生がより参加できる機会を設けるよう授業の方法について工夫していきたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Discussion II	2	後期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Through this class, it was hoped the students would be able to achieve the following: - Improve general communication skills - State opinions about the topics under discussion - Show if they agree or disagree with other's opinions - Clearly express their points of view and explain why they hold those views - Prepare and make short presentations about various topics
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. While the students made some effort to accomplish these outcomes, they did not really move beyond the basics. Unfortunately due to a failure to complete all the required components of the course, or poor attendance, a number of students failed the class.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	A number of the students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions. Some students did have a degree of difficulty in focusing on the course content, which led to a fairly slow level of progress. The more capable students were able to work at their own pace and did well on the various projects and out-of-class extra activities they were asked to complete.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	As well as trying to get the students to take part in discussion activities, we worked a lot on short presentations. These seemed to go quite well.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	We have made quite significant changes to the syllabus and the text for this class for this year. It is hoped these will be more appropriate for the students.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Discussion II	2	後期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	As in last year, we continued using Global Connections for this course. As well as the coursework from the textbook, we heavily supplemented using online activities on our Moodle CMS. This course also has a strong focus on vocabulary building, so we set up a system for students to learn 4 vocabulary lists of approximately 200 words each, and these were tested on during the semester.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 1. Vocab Test scores (15%), mid- and end-of-semester projects (15% each), class performance (25%), portfolio (10%), self evaluation (10%), and progress in e-learning (10%). The average grade for the semester was 84.85%, with a range of 73% to 91%. All of the students completed the e-Learning section of the course.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	This class continued the big improvement on last year mainly because the textbook which was much more accessible to them. However, we still needed to supplement the content a lot, and spend much time on building vocabulary skills.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	With a new staff member in our department (Andrew Zitzmann), I have been able to pass over the responsibility for this course to him. This, along with reduced class numbers because of dividing the year group into 4 instead of 2 classes, will allow us to further develop this course. We will continue with our ongoing strategies of utilising active learning and task-based learning as the core components of the programme.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	As with last year, I was reasonably happy with how assessment was processed this semester, and we had a good degree of transparency. However, we still need to teach students how to better access their assessment data and use it to further their learning by understanding their own needs more.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Presentation	2	後期	必修	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This was our third year in this course to use Room 531, and it was another big intake of students for the course. I continued with the self-paced learning course with students moving through the material and not being able to access advanced material until earlier assignments had been completed. During that time, students had to attend specific workshops on skills they needed to learn. We still ended the course with a final project presentation, but, again, their level improved immensely!
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Any activity that has a grade will have a number after it, like this example: [10 : 7/10]. In this case, "10" = how many points a student can get for the activity. "7/10" = how many points they must get to pass this activity. In each module, they must pass ALL the activities before they can move to the next module. GRADES Module 1 (8 points) Presentation 1 – [5 : 4/5] Orientation Notes – [3 : 2/3] Module 2 (11 points) Keynote Workshop Summary – [3 : 2/3] My Keynote – [5 : 4/5] Presentation Design Summary – [3 : 2/3] Module 3 (11 points) Orientation Notes – [3 : 2/3]					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Following the issues we had the previous year with students scoring too highly in the course, the standards of acceptance of material were raised and this achieved a better balance in scoring for the course. It also had the added bonus of pushing the less motivated students to work harder.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	Because of the large intake of the incoming year group, we have split this class into two sub classes. This will lead to me being able to spend more time with individual students than I have been able to in the past.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	The strong point of this course was the transparency of assessment data, and the self-access aspects to the course. Overall I am satisfied with those.□
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Creative Writing	2	後期	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course was divided into two parts. The first part focused on poetry and the second on narratives. The aim of the course was to have students enjoy using English in a creative manner. Generally, the students took up the challenge and were quite creative in their productions. This was a good opportunity for those with less academic aptitude to shine. However, it was sometimes difficult to sustain the creativity for longer periods of time. Other activities could be used to give a bit more variety to the program.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	There was a good range of scores in the class which accurately reflected the amount of effort the students put into the course. A third of the the students got either S or A. This reflects accurately with the amount of time the students put into the work outside of class, the more they did the better the score. The student evaluations of 4.2 reflect well on the course.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In this regard the goals were met as reflected in the student feedback.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Generally there were no serious problems, as indicated in the students' feedback. As mentioned earlier, one improvement would be to include some alternate activities which are not only focused on the creative aspect in order to give more variety during the classtime.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	I think the course was a success and that the goals of the program were reached. There was a problem with attendance with some of the students, but for those who attended regularly they seemed to have gained from the course. To improve the course some alternate activities might be needed to increase focus during the class.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Creative Writing	2	後期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度までの4年間の授業を振り返り、ライティングの授業ではあるが、やはり基本的読解力を養成しない限りライティングの上達はないことを確信し、毎回授業時間の一部をサイトトランスレーションの練習にあてた。自由記述には「最初は何のためにこんなことをやっているかわからなかったが、途中からわかってきて、その効果を実感した」という旨の記載があった。それがライティング上達にもつながったようである。 それ以外にも、学生達が毎回提出した英文を見て、共通する間違いを指摘し、その日のライティング作業に入る前に注意を促したことも好評であった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の回数を追うにつれ、上述のサイトトランスレーションの精度が明らかに向上した。また避けるべき間違いを指摘し続けることで、その類の間違いが減った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。
--	---------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	進め方は現状でよいと考える。毎回の添削返却を試みたが、できなかった 回もあるのでそのような回は減らしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	良好である。
------------------------------	---------------

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学入門Ⅱ	2	後期	必修	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①速読と精読の両面から文学作品にアプローチするための導入授業として、前期で踏まえた読書経験と知識を土台に更なる発展を促した。 ②前期より難易度の高い2冊の小説を取り扱い、文学的批評を紹介し、映画の解釈と比較も学生に行わせた。 ③レポートに比重を置いたので、毎回のレポートの採点や、最後に提出するレポートの添削を行った。 ④図書館の多読コーナーへの誘導を行い、学生に読書を促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度評価は、(1)～(7)の項目において平均値が3.7～3.9と高かったが、いずれの項目にも①「全くそうでないと思う」と回答した学生が1人いて、否定的な感想を抱いた学生がいたことも反省の理由として留意したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、専門基礎科目となるこの講義においてどの学生にも教養としての文学の知識や楽しみを教授できたのは良かったと思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	特にレポート作成などに関しては、図書館の利用を促したものの、34名中利用したと回答したものは10名にとどまったのは残念な結果であった。授業の中で本を読み予習復習をすることで手一杯であるので、今後3、4年生となった時に図書館を自発的に利用してくれることを期待したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年から、レポートの内容や形式をシラバスに明記したので、説明がしやすくなった。毎年参考資料を増やしたりと、教材の改善は行なっているが、授業中に話し合いや発表など学生のグループワークを促す時間を作るなど、授業のありかたも今後工夫できればと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	家根橋 伸子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施においては、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」に続きアクティブラーニングを念頭に自主的に調べ、考え、発表する能力の育成を大切にするとともに、批判的思考能力の育成を目指した。昨年度私の上記授業を受けていない学生に対して、学習準備性の点で不安があったが、授業の初回において趣旨となぜそのような授業方法をとるのか(本授業は知識理解、思考判断での能力向上を目指している。教師は、真の知識理解とは主体的に調べ、考え、他者に向けて発信・共有することで初めて得られるものであると考えている。またその過程で批判的思考・判断力も養成されること)を説明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績は、欠席が多いこと、発表及び他者の発表へのコメントシートの内容が不十分であった者、無断途中退席など授業態度の悪かった者を除き、80%がS～Aという評価となった。 ②発表の評価として批判的思考を問うたが、全体的に思考の深さや鋭い視点での資料提示・考察が提示された。 ③ただし、ごく一部の学生で不十分な発表に終わった者があり、評価をCとした。これらの学生が学習量においても当然低い評価となったと思われる。 以上から、概ね目標は達成されたものと評価した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は知識理解、思考判断での能力向上を目指している。教師は、真の知識理解とは主体的に調べ、考え、他者に向けて発信・共有することで初めて得られるものであると考えている。またその過程で批判的思考・判断力も養成される。項目4で示した自由記述を含む評価の結果から、本授業の内容がカリキュラムに対して内容的に妥当性があったと結論付けることができると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アクティブラーニングを軸とした本授業の進め方は、授業評価からおおむね学生の評価からも効果的であったと言える。本授業での発表に取り組むことで歴史・地理に対する新たな視点を得、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、教師への質問やコメントの機会がやや足りないという評価も1名あった。また、自由記述において肯定的な記述がある一方で、科目名と内容が一致していない、教師都合による休講・遅刻があった、教師の説明が理解できない部分があった、との記述が各1名あった。1つ目のものについては、上述のように初回及び第二回において授業の意義と「歴史」「文化地理」の捉え方と授業の進め方との繋がりについて説明を行い、受講するかどうか考える機会を与えていた。記述者はこの回に欠席していた可能性がある。また、2番目の記述については休講に対しては補講を行っており、遅刻した回についてはその回のコメントカードに同様の記述があったため体調不良でやむを得なかったことを翌回の授業時に説明・謝罪した。記述学生はその回に遅刻していた。3番目の記述については今後改善していきたい。今年度も2学科合同のため学生数が60名とアクティブラーニングには多く、一人一人に発表させ、そののち教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかった。この点がうまくいっていれば少数の不十分な発表に終わった者も救えたかもしれない。短時間での教師の効果的な介入の仕方を工夫する必要があるかもしれない。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	前項で述べたように、アクティブラーニングを軸とした本授業は、ほとんどの学生たちが質の高い発表を行い、思考の深まりを見せた。本授業での発表に取り組むことで自身の関心のある事象に気付き、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、2学科合同であるため学生数が多く、教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかった点は残念であった。来年度は単学科となるが、40名程度の受講が予想され、短時間での教師の効果的な介入の仕方を工夫する必要があるかもしれない。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Area Studies II	2	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	As occurred last year, this course follows on from Area Studies I which focuses totally on Canada. Realising that the students generally have a very poor conceptualisation of where they are in the world and the richness of cultures around us, Area Studies II focused less on countries and more on concepts such as family, education, food, recreation, government, etc to give the students a broader outlook and better global perspective.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on grades for each unit of study, plus a final project. Assessment was kept open and transparent so that students were always aware of how they were doing in the class. Grades ranged from 76% to 94%, with the mean score around 87.78%. All but one student (because of no attendance) who enrolled in the course passed.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students showed a positive attitude to this class and an appreciation of its practical nature., so DP3 and DP4 in particular were achieved. Weaknesses in general knowledge and background caused a few problems with DP1 and DP5, but by the end of the course the students had made significant gains.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Again this year, we incorporated the use of digital portfolios into the coursework. However, most students felt more comfortable with paper. As we ran this course in collaboration with the Presentation Skills class, we were able to use the skills learned there to be more involved in the level of their presentations.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	For the next year, this course will have a new instructor (A. Zitzmann). We will be working on making the programme better balanced through both semesters so that students develop a better world view.
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅱ	2・3・4	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学概論で一般的に触れられる内容を、時として減らしてでも、学生達が理解できる内容に落とし込むことを常に心がけた。特に意味論は、抽象的な思考が必要とされ、「意味の意味」を定義する3つの主流となる考え方を理解させるのに、予定時間を超えて具体的例をたくさん挙げる事を試みた。特に今年度は、「物の見方」について平易な英文で説明された記事を導入し、それを自分らしい日本語に訳してみる作業を通じて、理解の定着に努めた。その後の社会言語学や国家の言語政策においても、身近な例をたくさん準備して授業に臨んだ。□
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義内容が抽象度の高いものであることから、「達成された」と評するには多少抵抗はあるが、学生達は皆熱心に理解しようと努めた。授業の後には毎回リアクションペーパーを提出させているが、毎回講義内容についての興味関心が刺激されたことを記述している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である
--	-------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	一般大学レベルでの英語学概論と比べるとおそらく内容が十分網羅されていない部分があると思う。しかし本学学生の理解力を考慮した際、そうした修正はやむを得ないと考える。自由記述には「非常に興味深かった」という記載が複数あった。□
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	良好である。
------------------------------	---------------

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅡ	2・3・4	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、高得点でなかったことによる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」が一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当てながら、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大した本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業の進め方については、特に問題はないと思われる。1名の学生が「学生の質問を受け入れ、それにこたえる機会が得られていた」の項目で「少しそうでないと思う」を選択していたので、さらなるアクティブ・ラーニング化をめざして、何ができるのか／何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業自体の質は高く評価されていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用時事英語	2・3・4	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期の時事英語入門と同様、難解というイメージが伴いがちな時事に、より深く興味・関心を学生に持ってもらうために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた内容や英語ニュースの背後にある背景知識にも言及するようにした。また、前期入門クラスとの差別化を図るため、比較的長い英文記事を取り上げ、応用クラスを受講しているという実感をもってもらえるような教材の選定を心がけた。そのために、できるだけ最新の時事をカバーした内容をリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にも新聞、テレビ、ネットなどから報道されるニュースにふれる機会を意識的かつ強制的にもたせるため、最新の時事英語をほぼ毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に2回時事英単語の小テストを実施した。また、応用というクラスを踏まえて、前期入門では実施しなかった内容に関する意見交換や発表なども行い、担当教員と受講者間で双方向性を意識しながら内容理解の共有に努めた。全員が前期からの継続受講であったため、受講にあたってのルールなどが理解されていたため、無断欠席や遅刻がほとんど散見されなかった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中24.5と、非常に良好な結果が出た。その一方で、定期試験の平均値は、50点満点で21.9点であった。これらの結果から教育目標はやや達成されたと理解している。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中15.5という平均値が出ている。これはほぼ全員が毎回何らかの形で主体的に発表などを行ったことの証左であり、受講者の授業満足度の上昇にもつながったといえる。定期試験の平均点が半分以下だった事実を踏まえて、今後試験前に復習する時間を取るなどして学修支援に努めていきたい(総合評価の平均点:79.2)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずはニュースや記事の背景までを含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という項目に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	前回同様、定期試験の正答率が低かった点が懸念材料である。授業で取り上げた英文記事の本数は少ないものの、読む英文の量が増加したため、試験の出題範囲が細かい部分にまで及んだ。答案をあらためて確認したところ、完璧に解答できている設問と無解答になっている答案パターンが多かった。授業の質評価においては、すべての項目で「そうだと思う」を全員が選択していたが、学習した内容の結果である試験の得点が低いというのは、復習などの反復学習ができていないことが原因である。そうした点を授業の中で改善できるようしくみを計画、実践していくことが今後の課題である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門で学習した成果を応用レベルへ発展していくという目標は達成できたと思われる。課題としては、前項目で言及したように、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、復習する時間を設けることで、定期試験における高得点につながるようにしたい。特に、最終授業日は新たな教材や記事を導入することなく、これまで学習した内容の復習に充当するなど、学生のニーズに合った柔軟な授業を展開することも検討したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	2・3・4	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	インターネットの発達や世界のボーダーレス化に伴い、高度に情報化し、国際化した現代社会において英語は政治・経済・文化・外交などの諸分野で一層、大きな役割を果たしています。また企業の海外進出、海外の企業との合併、海外での子会社設立といった激変するビジネス社会に対応して、ビジネス英語のニーズも激増しています。このようなビジネス英語を取り巻く環境の変化、ニーズの変化は目まぐるしく、これまでのビジネス英語が取り扱ってきた対象を拡大する必要性が生じています。一例として、インターネット時代に入り、従来の手紙や電信・電話といった通信手段がEメールに取って代わることで、ビジネス英語のスタイルや構成にも変化が見られるようになりました。使用したテキストは海外の企業との取引をストーリー化したもので、実例を見ながら、実地に新しいビジネス英語のスタイルや構成を学んでもらうことに重点を置きました。ただ、ビジネス英語の基本は、日常の一般的な英語力であり、また初めての相手との会話や交渉に通じるエチケットやマナーや心遣い(これらを一般に「プロトコール」と呼んでいます)であるので、授業全般を通じて、英語力の引き上げと、ビジネスに直結する「相手に対するエチケットやマナーや常識的心遣い」を学んでもらうことを目標にしました。なお、使用したテキストは、出版社のホームページからすべての音声ファイルが無料でダウンロードできるので、必ず音声ファイルを手に入れてテキストと並行して音声面の学習が進むように配慮しました。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中に2度実施した復習テストでは、いずれも15点満点で、クラスの平均点が1回目6点、2回目5点であり、目標にしていた7～8点を下回りましたが、いずれにも欠席による未受験者が数名いましたので、これらのクラス全体平均点への影響を差し引くと、概ね、設定していた標準点に近かったこと。さらには、学期末試験では、クラス平均点が70～80点になるように難易度を調整して作問しましたが、結果として、満点に近い高得点者と低得点者の間の得点差は大きかったものの、平均点としては、ほぼ75点でありましたので、これらを総合して、「やや達成された」と判断しました。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP,CP,カリキュラムMAPにおいて、本科目はビジネスの分野で求められる必要にして最小限の英語力の養成と同時に、ビジネスに必要なプロトコール(いわゆるエチケットやマナー)の知識とその実践を目指す科目として、妥当な位置づけであり、またDPIにおいても、「知識理解」と「技能表現」に位置づけられて、十分に適合していると判断します。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講生の中には、「必修科目」とは違って「選択科目」には「気やすさ」のようなものを感じるのか、学則で規定された欠席回数ぎりぎりまで欠席を繰り返したり、例えば「音声をダウンロードするように」と指示しても、最後までダウンロードしない受講生には、成績評価に反映させることは容易ですが、現実には、クラス全体の授業の足並みの問題から、欠席時の授業内容や小テスト未受験など、どのように当の受講生に対してカバーし、補償するのか、などの問題に至るまで、難しい問題が残されます。テキストの聴き取り問題として用意された音声ファイルは非常に聴き取りやすい平易な英文でしたが、音声を聴いても英文が聴き取れないという一部の受講生の意見を受けて、急遽、テキストに掲載されていない全音声のスクリプトを作成して、全員にプリント配布して、聴き取れない受講生が活字を見ながら、音声の確認が出来るように配慮しました。授業以前の問題も散見されますが、可能な限り、改善に努めたいと思います。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	例えば、英語力の涵養に不可欠な音声ファイルが入手でき、テキストと全音声と、その音声ファイルのスクリプトを配布することによって、意欲さえあれば、完全な学習が可能になっている今の環境を最大限に活用して、授業が終っても、さらに研鑽を積んで自らの英語力を強化して欲しいと願っています。すでに上記の「達成状況」ならびに「その根拠」の項目で「ほぼ達成された」と述べた通りですが、特に選択科目では現実の問題として、初回にはテキストを持たず、授業内容の確認に出席し、その後、受講を決めてからテキストを手に入れる受講生も少なからずいますので、限られた授業回数をさらに無駄にしないように、授業の内容や進め方も含めて、可能な限り、これからも創意工夫に努めたいと思います。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2・3・4	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	講義時に自分の意見を披露し、ディスカッションしてもらうために、その内容に関連する書籍や新聞・雑誌の記事、映画やドキュメンタリー番組、そしてYouTube上の動画などを紹介し、事前に予備知識を取り入れ、咀嚼してもらい、自分なりの立場や意見がある程度固めてから講義に臨んでもらうようにした。また受講生の国際関係への関心を高めるため、シラバス記載の講義計画に基づきながら、その都度、生起した国際関係上のトピックをケーススタディとして取り上げ、講義で解説した理論枠組みを利用するとどのように解釈できるかを考えてもらった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.2点ということで、数名を除き標準レベルに達することができた。テストの結果や、授業中の彼女らの発言からも、思考判断に関しては、こちらが驚くような発想力・思考力を示してくれた。ただ、授業中には直接扱わなかったものの、国際関係論・国際関係史を学ぶ上で当然知っていてほしい常識レベルの問題をテストに出題したが、こちらの方はあまり出来が良くなかった。自分なりの視座で国際関係の事象を眺められるようになるためには、思考力だけではなく、一定量の知識が必要だ。この点に関しては、講義時間中に演習を実施する機会を設けるなどの工夫をしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は、人文学系の学科内に設置された社会科学系科目に位置づけられる。しかし、国際関係論という学問の特性上、そこには政治学・経済学・歴史学・社会学・心理学・地域研究などのさまざまな学問的アプローチが内包されている。これら多岐にわたる学問的アプローチに触れることは、英語学科で文学・歴史学・言語学を学ぶ学生にも有益であり、内容的にも妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 学習到達度も学生から概ね肯定的な評価を得ることができた。ただ、講義中の質疑応答でも国際関係を学ぶ上での基礎的な知識に若干の不足を感じるがあった。来年度は、歴史的事実の解説を多目にするこでこの部分を補いたい。 ③まとめ 以上から内容妥当性には問題がないと考えらえる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今回の学生からの評価は、幸い「国際問題に関心を持つようになった」「楽しかった」という肯定的なものであった。ただ、彼女らが抱える現代的な興味関心に比べ、授業で扱う題材が時代的に若干古いものであった感是否めない。今年度の授業では、授業で扱うケーススタディを全面的に見直し、学生たちにとってより馴染みのある題材をもとにして授業を進めていこうと思う。 学生からの授業中の発言は活発であり、内容的にも興味深いものが多かった。(2)で記したように、今後は、そのユニークなアイデアを文章でも説得力ある形で表現できるよう、レポート・コメントカード等を利用し、学生の文章力を涵養する機会を設けていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の目標に関しては、成績やアンケートの状況から概ね計画通りに達成できていると評価できる。ただ、このような状況に甘んじることなく、受講生の達成状況がさらに上昇し、彼女らの知的興味・達成感をさらに満足させられるよう、講義内容を精査していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The second term course focused on providing Tourism Department students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria passive participation 30%, class tasks 23%, class preparation 22%, and a final test 25%). The majority of students received scores in the 80s and 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year will include more focused class preparation assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	I am pleased that the two departments each have their own classas now which has improved the learning opportunities for all students.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion II	3	後期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course aimed to have students learn about various ways of evaluating ideas for discussion and to be able to respond in a more thoughtful manner. The contents of the course were more advanced than in the first semester and were a bit too challenging for some of the students. Adjustments to the course had to be made during the semester to make the material more understandable.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students were able to get an understanding of the differences in arguments, yet the lower range of scores highlighted the challenges that the students had in understanding and discussing the topics in English. Therein lies the problem with achieving the DP goals.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The feedback from the students indicated that they were motivated to understanding the matters presented in the course and in achieving the curriculum goals, even though the material was quite challenging.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The student evaluations indicate that the interest in the subject is there, but that it was difficult to understand. Final evaluations reflect the amount of effort that the students put into the course: the more they prepared, the better their results.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	The course needs to proceed at a better pace in order for the students to gain a better understanding of the material. For better results the students also need to increase the amount of time they spend in preparing for the course.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion II	3	後期	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	As in previous years, this course followed on from the first semester where the students were encouraged to play a greater role in the development and assessment of the course to develop their critical thinking skills. This semester, the focus was on business English, and we worked on case studies, research skills, SWOT analyses, and a final project. The students were encouraged to be proactive in their studies and prepare thoroughly for the classes.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on a number of criteria: Class performance, Preparation, Assignments, and Final Project. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades, with some exceptional students achieving high grades. The average grade was 83.24% with the lowest being 64% and the highest being 93%. No students failed due to excessive absences. □					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Overall, the students covered the goals quite well. This was potentially a class that could achieve well, and they lived up to my expectations, performing well at the various communicative and research tasks assigned to them. DP2, DP3, and DP5's targets were generally achieved. DP1 was the only problem as they were hindered a little by a weak understanding of the topics and a lack of preknowledge.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Our goal of flipping the classroom had modest success this year, though lack of confidence hindered some of the students from engaging in this fully. For the coming year, we will add more online material they can use as a resource for creating their own materials. We will also try to use media to a greater degree in these classes. We are also assessing whether to continue with this program or to expand the semester 1 programme to run through the whole year.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	We will continue with our system of collaborative assessment for the coming year, though will set up clearer parameters so the students have a strong metric to work towards. Also, we will make self assessment an ongoing rather than final activity and place greater emphasis on their portfolios.□
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語研究Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「時事英語研究Ⅰ」からさらに発展させた内容という位置づけである。研究というタイトルが付与されている点を踏まえて、これまでの時事英語入門や応用時事英語のように時事英語自体を習得するだけでなく、学習した内容について日本語および英語で意見や考えを発表し、それらを受講者全員で共有する機会を設けた。履修者全員が時事英語入門や応用時事英語を昨年度受講していたため、科目の「差別化」を意識して授業を展開した。自由記述においても、好意的なコメントが寄せられた点から、概ね望ましい結果が得られたと認識している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が30点満点中19.3で受講者間で点数の差が大きかった。定期試験に関しては、平均値が50点満点で37.8と中間試験に比べると改善していた。これらの結果を踏まえて、ターム期間中の教育目標としてはやや達成されたと判断している。積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中8.4という平均値が出ている。これは受講者間で意見交換や発表に差異が生じた結果であり、あらためて授業を円滑に運営することの必要性を痛感している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。しかし今回の受講生は、全員が本科目の下位に位置する時事英語入門や応用時事英語をすでに学修済みであったため、昨年の時事英語に対する知見が活かされていた。そのため受講者間で差があったものの、内容に対するディスカッションや意見交換もある程度達成できた。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という項目に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの自由記述は6点あった。「とてもわかりやすかった」「時事についての知識を深められた」「ありがとうございました。とってもためになります」「いつも面白くて学びの多い授業をありがとうございます」「毎回の授業が楽しく勉強になった」「先生のお話しおもしろかったです」などの好意的なコメントが寄せられた。このような感想を持ったことに担当者としては非常に嬉しく思っている。しかしその一方で、授業貢献度の点数差が受講者間で大きかった。全員と何らかの形で意見交換ができるように、その日の授業で取り上げた内容に関する意見をレポートという形で提出するなどの手段を講じていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門、応用時事英語、さらに前期時事英語研究Ⅰで学習した成果を発展的レベルにまで上げるという目標は達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、適宜復習する時間を設け、中間試験や定期試験の高得点化を目指したい。くわえて、学生間の意見交換やペアワークなどのアクティビティをより多く取り入れ、英語での自己発信を積極的にサポートできるような体制を強化したい。また、学生の積極的な学習姿勢をきっちりとチェックし、受講生からのフィードバックやタームの途中での要望や改善なども今後導入を図っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学特殊講義	3・4	後期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①英米文学の中から、主要な詩人たちとその作品をテーマに講義し、講読、鑑賞した。 ②詩の技法や鑑賞法を学習していく中で、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習を行った。 ③受講動機を見てみると①必修科目10%、資格取得に必要16%、関心のある内容37%、単位数の確保50%のほか、先輩に勧められた3%であった。学生のコースによっては必ずしも必修とは限らないこの講義において、内容に関心があると行った積極的な理由で履修を決意してくれたのは嬉しい限りである。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価のほとんどの項目における平均値が、3.9-4.0であることから、詩の技法や鑑賞方法などの明確な目標は達成したものと思われる。また、成績は、2名が良でそれ以外の全員が秀か優であり、ほとんどの学生が積極的に学習し、優秀な成績をおさめた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の専門展開科目であるこの授業は、ほとんどの学生にとっては選択科目となっており、基本的に2年時で英語文学入門などで文学が好きだった学生が選択してくる。また教職をとる学生にとっては必修であり、万人に向けたレベルというより、英語を専門とした社会人に通用するレベルの講義とした。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自由記述には音楽や詩をCDで聞いたことに対する肯定的な意見や、馴染みのなかつた英詞を初めて学び今までにない考え方に触れたことへの驚きの意見が多 かった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	最後の5回の授業の後半をオーラルテストに当てた。これは詩を暗記するのに絶好の機会であり、どの学生も内容自体はよく暗唱していた。また図書館でCDを聞く ことを促した結果、ほとんどの学生の発音もよかった。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	浅羽 修丈

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の数学	3・4	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、数学について学習する授業であるが、複雑な計算問題や公式への当てはめなどに重点を置くのではなく、普段の生活の中に出てくる数学や生活の中で必要となる数学的思考法に重点を置いて解説することを心掛けた。 第1回目の授業時に、数学に関連する質問をしたところ、多くの受講生が数学は苦手であることが分かった。また、「受講動機」において、69.6%の受講生が、単位数を確保するために受講したと回答している。一方で、関心のある内容であると回答した受講生は、43.5%と、例年より大きな割合であった。これらの事実から、受講生は、数学は苦手であるが関心は持っていることが分かった。 そこで、本科目では、初等・中等教育機関で学んできた数学のイメージから脱し、身近な事例を交えつつ平易に解説していくことで苦手意識を払拭しつつ、興味や関心を膨らませるために、生活の中の様々な事象と数学とを結びつけるような授業を設計した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	まずは、「全体を通して」について検討する。最終的な成績の平均値は、71.5点であった。さらに、成績の内訳は、Sが6名、Aが2名、Bが10名、Cが3名、Dが3名であり、Bの受講生が最も多かった。これらの結果から、多くの受講生は、標準レベルには達したと判断できる。一方で、SとAを合わせると8名であり、成績が優秀な受講生も多かった。これらのことから、全体を通しての達成度を「やや達成された」とした。 「思考判断」について検討すると、授業評価アンケートの到達度自己評価の(4)「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、及び、(5)「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2つの項目の平均値が、ともに3.9であり、まずまずの評価を得ることができた。そのため、「思考判断」をやや達成されたと判断した。 「意欲関心」について検討すると、授業評価アンケートの到達度自己評価の(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が3.9であり、まずまずの評価を得ることができた。そのため、「意欲関心」をやや達成されたと判断した。 「技能表現」について検討すると、授業評価アンケートの到達度自己評価の(7)「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、及び、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の2つの項目の平均値が、それぞれ3.9と4.0であり、まずまずの評価を得ることができた。そのため、「技能表現」をやや達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、英語学科の専門性からは、離れた内容となっている。そのため、CP・DPの観点から、教養を広める科目という位置付けであると判断できる。そこで、本科目では、数学の専門性を高める内容ではなく、普段の生活の中で困らない程度の数学的思考判断力、技能表現力を身につける内容を提供してきた。授業評価アンケートの「到達度自己評価」の平均値は、3.8～4.1であった。この点から、本科目は、ある程度、内容的妥当性が高かったと判断できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの「授業の質評価」の項目の平均値は、3.9～4.0であった。すなわち、課題の評価基準や範囲、説明の仕方、学習者が参加する機会を設けるといった授業の進め方については、問題なく運営できたと捉えることができる。しかし、自由記述の意見から、2点ほど改善課題が見つかった。1点目は、課題の点数についてである。クラス全体の平均点や最高・最低点を示しているが、個人の課題の得点は、直接、質問しにこない限りは明らかにしていない。課題を返却する際に、点数を記述するなどの工夫が必要である。2点目は、授業中での発言についてである。授業のはじめの頃では、受講生たちは挙手をしてしたが、そのうち、挙手をすることなく質問に対して直接答える機会が多くなっていた。必ず、挙手をしてから発言するように促す工夫が必要である。 しかし、「学習量の評価」を見ると、事前・事後学習が十分でないことが伺える。昨年度も同じ評価であったことから、事前・事後学習の方法や、自主課題などを設定したが、あまり効果がなかった。事前・事後学習を促す別の指導方法を検討すべきである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の教育目標については、おおむね達成できたと考えている。また、授業の進め方についても、問題なく進めることができたと考えている。しかし、来年度に向けて、以下の3点を課題として挙げたい。 1. 事前・事後学習を促進する指導方法の検討 2. 課題の点数を個人に開示する仕組みの検討 3. 発言時の挙手の徹底 今後は、これらの課題を中心に、積極的に授業改善に取り組む所存である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
インターンシップ	2・3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	外部講師と毎回綿密な打ち合わせと振り返りを行った。インターンシップに出かけることを前提とした授業であるため、受講生の意識も高く、社会人としての常識を養成することに主眼をおいた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	就職指導専門の外部講師とタイアップした授業だったこと、毎回綿密な打ち合わせをしたこと、学生達の受講動機も明確であったことなどから、達成度も学生の満足度も高かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	実施時期は、3年生前期がベターかもしれない。
--	-------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	今回の進め方を踏襲したい。
--	----------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	極めて良好である。
------------------------------	------------------

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2・3・4	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業実施にあたり重点に置いた点は、学生の目標(希望の職業)を達成するために、企業が求める人材を理解させ、見合う人材になる為の基礎的な知識と実務に注力することでした。 ②『受講動機』は受講生23名中、(資格取得に必要である)が2名。(関心がある内容である)が9名。特に3年生は就職試験を控えているため、具体的に必要な知識を伝えました。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終成績の平均点は73.44点でした。ゆえに(やや達成された)としました。 ②『学習到達度自己評価』は4.1～4.2。中央値よりやや高く。多くの学生が(やや達成された)と感じたものと思われます。 ③『授業の質評価』は、(2)期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった→4.0(中央値)。それ以外は4.1と中央値より高く、学生から評価されたものと考えます。 ④『学習量の評価』は、0回が11名。30分程度の学習を1回～6回が12名。学生の学習量が増えるように促してまいりますが、半数以上の学生が予習復習をしたということで、(やや達成された)といたしました。 ⑤学生自由記述「しらべたりした」の記述がありました。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DPとカリキュラムの内容的妥当性について、『到達度自己評価』は(2)知識の確認、修正したり、新たに得ることができた→4.2。それ以外は4.1と中央値より高く、内容的に妥当と考えます。 ②学生自由記述「社会に出た時に恥ずかしくないようなマナーを学べたと思う」「就活がんばります」の記述がありました。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①『学習量の評価』につて、授業内容は日々の生活に取り入れられることも多く、学んだ内容を日々 に活かすように促し、それが復習に繋がる旨伝えていきたいと思 います。 ②学生自由記述「小テストの勉強をした」小テストは引き続き実施しようと思 います。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①『到達度自己評価』『授業の質評価』共に中央値より高く、基本的な授業内容は継続していき たいと思います。 ②課題としては、若い学生とより良い人間関係を構築しながら授業を進めていき たいと思います。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小学校英語教育研究	3・4	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 受講生のほとんどは、前期の「小学校英語教育入門」を受講していた学生であるので、ある程度共通の知識があることはわかっていた。よって、それらの知識をもとに、さらに理解が深められるよう課題などを設定した。 ② 約25%の学生が受講動機として「単位数を確保する」を選んでいる一方、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」という学生もそれぞれ3割以上いるので、最低限必要な理解と、発展的なものとの区別がわかりやすいように授業を準備した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.8点で、ほとんどの学生が標準的レベル以上に達した。到達度自己評価については、全員がすべての項目について「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えており、成績と達成度自己評価は矛盾しないと思われ、目標は達成していると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 受講動機に大きな開きがあり、動機づけに苦慮する面があるが、最低限必要な部分と発展的な部分とをわかりやすく示すなど工夫し、成績評価で多くの学生が達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から学生の達成度に若干の開きが見られたが、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考え。 ③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、どの項目についてもすべての学生が「まあまあ そうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答して おり、ある程度肯定的に受け止められていると思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	約25%の学生が単位数の確保のために履修している一方、将来の職業選 択のための必要性から受講している学生もいるため、学生のレディネス や動機付けに大きな開きがあり、授業運営が難しい面があるが、すべ ての学生が一定の成績を収めていることから、目標は達成できたと考 える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This seminar was based around using media to study English. They used movies, podcasts, audio books, and so on to build their English skills through studying the vocabulary and English used.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Attendance was no problem and when given specific tasks they completed them well. They needed to focus on self-paced learning more as motivation was sometimes lacking.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1, DP3, and DP5 were achieved. DP2 needed work as they relied on others for leadership- particularly in discussion, and DP5 was a little weaker than it should be because of this.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	Nothing in particular
--	------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	This year's topic was a good one, and for this coming year they will do a similar focus, though will concentrate on skills a bit more.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業論文のテーマ探しに向けて、ゼミ生を4つのグループにわけ、そのグループ単位で緩い共通性のあるテーマに取り組ませた。テーマは基本的に自由に選んで良いので、逆に決めきれない傾向がある。従って3年生のうちからテーマの範囲を絞っていくように指導した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	これを記入している翌年度前期の段階で、多くの学生が3年次に取り組んだテーマで卒論の執筆に取り組んでいる。数名はテーマを変更したが、卒論に対する心構えは十分に養成されている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。ただし、専門性を突き詰めるというよりも、論理的思考・説得力のある文章作成に向けた指導が主となっている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

ゼミ生の特徴により柔軟に対応しているが、基本的に現在の進め方でよい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

良好である。

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。 ② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流やNGOとの協働等を学生自らが体験出来る機会を設けた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業での発表等については、全員が標準的レベル以上に達していた。また学生の到達度自己評価では、すべての学生がすべての項目について、「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していることから、目標は達成できていると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみた内容的妥当性 学生は興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみた内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、すべての項目についてすべての学生が肯定的な回答をしている。しかしながら、学習量が十分とはいえない学生もいたので、取り組みやすい課題を準備するなどして対応したい。 図書館の利用については、多くの学生が図書館の図書や雑誌を利用しておらず、学術データベースについては全員の学生が利用していなかった。図書館の利用についての指導を十分行えなかったことが原因と考えられる。来年度は十分な時間をとって指導できるよう計画したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	来年度の卒業研究へと続いていく科目であり、卒業論文を書くために必要なことを学ぶ場である。そのために必要な知識や技術等を身につけられるよう授業を実施したが、図書館の利用については指導が十分ではなかったので、卒業演習の授業で補っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると「必修科目である」100%「関心のある内容である」25%であった。ゼミ選択の動機としてはやや残念な結果である。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。③春休みの課題を出し、卒業論文のウォームアップへと繋げた。④就職課と連携し、グループ面接の練習をしてもらうなど、4年次から就職活動を具体的に開始した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は「優」とした。学生の到達度自己評価によると全員の学生が、(1)から(10)のほとんどの項目で「割りにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している。「職業選択の参考になった」の平均値がやや低めの4.0であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容的妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみても内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自由記述欄には、「他国の文学を一年もかけて学ぶという機会が少なく、とても良い経験になった」「イギリスと日本の文化の違いを知ることができた」等、異文化や小説の勉強の楽しさがわかったことへの肯定的な意見が目立った。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	図書館利用が、「利用しなかった」と選択した学生が8名中7名だったのは、文学のゼミという特性上、残念である。特に二年目からは卒論に向けた指導を具体化させていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This year, the focus was almost entirely on completing their sotsuron studies and report, though each week supplementary activities were completed.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Though distracted by job hunting, this class generally worked well towards achieving their goals.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	For the most part, this class progressed well, though absences for job hunting caused issues. Support for each other was effective, and 'sotsuron' were satisfactorily completed.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Nothing in particular

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Nothing in particular

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業という形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本年度も受講生が8名とやや多めだったが、各学生の指導時間をしっかりと確保できたと思う。来年度以降も、各学生を指導する時間をしっかりと確保できるように努めていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の達成度・満足度は、高かったと考えられる。来年度以降も、各学生を指導する時間をしっかりと確保できるように努めていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業論文の完成に向け、定期的に締切をもうけ、次に何をするか明確な目標を与えながら指導した。また、小学校での授業補助など、文献による調査に留まらないフィールドワークを取り入れた内容で書けるような工夫をした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が期日までに卒業論文を完成させ、ポスターセッションでの発表も立派に行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。ただし、専門と性の追求というよりも、論理的思考・説得力のある文章作成に重点をおいた指導となる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	現状でよい。
---	---------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	良好である。
------------------------------	---------------

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 卒業を前にした仕上げの科目であるので、あらゆる面についての総合的な力を身につけることに重点をおいて授業を行った。 ② 卒業論文の執筆については、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションを行う部分と、個別に指導する部分に分け、効果的な指導ができるよう心がけた。必要がある場合は、授業外にも時間を設けて指導した。 ③ 就職活動と卒業論文の執筆の両方がスムーズに進むように、昨年度から卒業論文の準備を始め、本授業では論文執筆のためのスケジュールを提示し、定期的に進捗状況を確認した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル以上に達し、卒業論文も規定に沿って仕上げる事ができた。また、学生の学生の到達自己評価もすべて肯定的な回答である。学生の卒業論文や課題もそれを反映したものとなっている。よって教育目標は達成されたと思われる。しかしながら一方で、卒業論文の執筆が当初の計画通りに進めることができなかったり、データベース、インターネット等を十分活用できてなかったりした学生もいたことは、今後の課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 この科目は大学でのこれまでの学修の総まとめ的な位置づけである。これまで学修してきたことを用いて学修を進め、最終的には卒業論文にまとめていくという授業内容になっており、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、すべて肯定的な回答であった。課題については明文化し プリントを配布したり、授業の説明については具体例をあげながらわかり やすい説明を心がけた。今後も改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	卒業論文については、面談やメールを利用して個別での指導をかなり実施 したり、互いに学ぶという観点から、全体でフィードバックを行ったり、 ディスカッションしたりしたことは、各学生の論考を深める点で効果的 だったと思う。一方で、インターネットやデータベースの利用について 時間を割いて指導したが、うまく活用できていない学生もいたので、 個別の面談の際に確認していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると「必修科目である」100%「関心のある内容である」0%であった。ゼミ選択の動機としてはやや残念な結果である。ちなみにオリジナルメンバーは全員第一希望でこのゼミに入り、残り3人は他先生ゼミからの第二希望としての移動である。②授業の初めに就職希望先に関係ある新聞記事を分析発表する活動をし、就活の面接対策にした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は「優」とした。学生の到達度自己評価によると一名を除く全員の学生が、(1)から(10)の項目「かなりそうだと思う」という肯定的な選択肢を選択している。残りの一名は「割にそうだと思う」であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容的妥当性:ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみても内容的妥当性:内容的に妥当である。③問題なし
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の項目においては、すべての項目において、学生全員が「かなり そうだと思う」を選択している。図書館の利用は、卒論執筆の年であるにも 関わらず半数程度であったが、卒論の内容の特性上、図書で調べるというよりは、 ネットなどの最新情報に所以する研究内容であったので仕方ない。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	毎回活発な議論を交わし、お互いを思いやる大変良い雰囲気のゼミで、就 職活動発表会においては、全員が学年全体の代表として発表するなど、良 い就職先を確保したことも、日頃の積み重ねであったと評価したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	担当テーマがノートテキングであったので、英語学習に関係するYoutube上の短い講義を見せてノートを取る練習をするなど、スキルと専門性が融合した形になるように務めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない		どちらともいえない	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	大学での基本的な学びを姿勢を身につけさせる、という文科省の意図で今年度から創設された新科目であると理解しているが、ひとつにはその分野の専門家ではないこと、もうひとつには、学び方というのは各人各様であり、仮に他人の良い学習スタイルを知ったからといって、自分のために生かすことができるか、はなんとか判断しづらいからである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	他に位置づけるところがないであろう、という意味で妥当と言わざるを得ない。自由記述では、ノートテキングの授業そのものが不要、という意見もあった。ただし、それは記述者が私の授業に満足できなかったというだけかもしれない、形だけノートの取り方やレポートの書き方、について講義をしたり作業をしたりする時間を取るの、本学においては意味があると思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自分なりににはできるだけの準備をし、学生達もそれに沿って活動してくれた。しかし、内面の満足度は測ることはできない。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	上述の通り、学生・教員共に、やりがいを感じにくい授業であるとする。達成感が得られにくいのが理由の1つである。 ただし、これを記述している時点(翌年度前期)の授業において、講義形式の授業の場合は、「皆はノートテキングのやり方は身につけているので、それを見直しな がら、本日の授業のまとめを書いて提出せよ」などという指示の課題は与えやすくなった。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。 ②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起した。 ③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ④生涯スポーツになりうる種目を選択肢に置いて、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。 自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①26名が受講し、最終的な成績の平均値は86点であり、再試対象は0名で履修放棄1名あった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは19名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。48%の学生が資格取得を目的とし、目的は様々であった。 ②目標に関して次の目標ように思った人数では、アンケート25名中、達成した25名、知識の取得25名、理解思考力アップ25名、課題解決できた25名、判断24名、力獲得24名、意欲向上24名、技術獲得24名、コミュニケーション力獲得25名、職業倫理行動規範学習25名、職業選択の参考24名と非常に様々な学習効果があったと考える。 ③授業の質を以下のように思った学生数は、回答者25名中、評価基準明確25名、学習課題明確25名、分かりやすい説明24名、学生の意見交換発表の場あり21名、質疑応答の場あり24名と答えており、ほぼ質的によい状況と考える。 ④学習量では25名中、全く予習しなかった者22名、復習しなかった者21名、記録をしなかった者14名、授業以外の学習なし20名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。 ⑤授業の情報利用に関して回答者25名中、シラバスを参考にしなかった者は16名、授業計画を立てなかった者12名、シラバスで受講計画した者13名中5名、教員の説明で受講は13名中13名で、半数がシラバスを参考にし、加えて教員の説明も重要と考える。 ⑥授業に関連した図書館の利用をしなかったもの者(25名中)は25名、データベース利用しなかった者23名、インターネット検索2名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士として運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極 的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持て るような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	最近富に、文字離れが甚だしい上に、読書体験が乏しい学生が目立つようになったので、そういったことからの文章力の低下を防ぐための方法を指導した。発想、表現、理解力の向上を目指し、上質の文学作品の構想、構成を紹介し、説明すると共に、それが私たちの日常とどの様に関連づいているのかを究明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	日頃言語に接し、英語の観点から物事を考える学生たちゆえに幾分、文学的なセンスと理解に長けているイメージがあったことはたしかである。当初は達成度が70%ぐらいであったが、学生自身の学びの自覚が見られて後、徐々に80%あたりまでは伸びたように思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置付けから見た内容的妥当性はよかったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	少数ではあるが、学生の中に全くシラバスをみないで受講する者がいる。私の場合、幼稚園の公的面接のため休講をやむなくせざるを得なかったが、それについて不満を書いている学生がいたが、今後、学生の理解が得られるような講義内容のあり方を工夫して満足のいく充実したものになりたいと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総括的には、最終講義までには、何とか全ての学生がまずまず達成できていると思われる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	哲学の授業を受講するのは大半の学生にとって初めての経験であると考えられる。したがって、初学者にもわかりやすいように日常生活の事例を哲学思想と関連付けて説明するよう心掛けた(たとえば経験と習慣づけによって徳が習得されるとするアリストテレスの思想をアルバイト経験と結び付けて説明することで多くの学生が共感してくれた)。あまり事項を広げず、アリストテレス、功利主義、カントの思想のエッセンスを、日常生活の事例を用い、かつそれぞれを比較しながら繰り返し説明することを心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	わかりやすさという点で言えばまだまだ課題は残るが、試験では学生たちはおおむね授業の趣旨を理解して的確に解答していた(テキストだけでなく板書や口頭の説明を網羅して非常に高い水準の論述答案を作成した学生もいた)。授業評価はおもにわかりやすさが評価基準となると思われるが、本講義のような科目においては各受講者それぞれの観点からの知的好奇心を喚起することがなにより重要である。「人生」の問題を「哲学」的思考と結びつけて考えることにいくらか関心をもつ学生には響くものがあったと思われるが(実際、毎回欠かさず授業後に質問に来る学生もいた)、現段階で関心のもてない学生はどうしても「難しい・難しすぎる」といった印象を受けるものだと思う。したがって、多数の学生ではなく少数であっても知的好奇心に応える内容だったと受け止められたならば授業に関しては十分目標が達成されたと考える。また「この授業を通して何を得たか」は、試験準備と試験結果をふまえてようやく把握できるものだとなれば、試験答案を見る限り、授業の趣旨は多くの学生に十分伝わったものと考ええる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度の自己評価を見る限り、各自の目標はほぼ到達されたと考えられる(ただし、学期終盤・試験前の自己評価であり、試験後に自己評価を行えばより正確な評価が得られるものと考ええる)。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	板書が見づらかった、板書の追加などによりノートが取りづらかった、誤字があつた、初心者には難しすぎた、など厳しい指摘を受けた。真摯に受け止めたい。とくに板書についてはあとから追加・修正するなどノート作成上余計な手間を要することを控えたい。また説明のわかりやすさについても、日常生活の事例をさらに工夫して取り入れ、より馴染みやすい説明を心掛けたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業については改善点(板書、説明)が多々ある。試験については各自十分準備し、授業の趣旨を理解して臨んでいたと思う。人生の諸課題に哲学的観点からアプローチするという試みに、より多くの学生が興味を持てるように工夫したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語発展	1	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語発展の概要及び達成すべき目標とは、「勉強の継続性を考え、より一層高い読解力、聴取力及び会話を養うことを教授する。中国語に對し関心を持ち、豊かな表現を楽しみながら、語彙と文型の学習をする」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の50.0%を除いて、③「関心のある内容である」も55.0%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数が少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてももう少し考慮していく必要があると考える。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は84.1点であった。標準的レベルを超えていた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週4回以上の準備を6人、3回以上を3人が行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成した学生が半数以上という成果が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.0点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.1点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1.「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2.「学習量の評価」については授業外の学習はほとんどなかったことから、 次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3.「図書館やインターネット等の利用」はあまりしていないという結果がでていた。引き続き、授業と 関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1. 中国語発展であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよ う、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が半数を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては3～4点がでており、授業の質評価でも4であったことなどを根拠と考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考え、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと考え、る。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	個人的な体験が労働政策や福祉政策、教育制度などの現在の社会構造とどのように関連しているかを理解できるよう、社会学的視点で現状を分析できる力をつけることに重点を置いた。そのために、メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど情報を読み解く手法を伝えた。また、学生の将来には多様な選択肢があることを実感できるよう、多方面の分野の外部講師を招聘し、個人の体験や専門的な領域について講話してもらった。特に、1年次の必修であり、この4年間の学生生活がキャリア形成にいかに関係重要であるかを理解できるよう努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中のミニレポートでは、外部講師の話からこれまでさほど意識していなかった問題、例えば、労働問題などが実は身近な重要な課題であることを理解している学生は多かったことが確認された。また、到達度自己評価から、社会の現状を分析的にみる視点の確保はある程度獲得できたと判断できる。ただし、試験結果からは個人的な体験や将来のキャリア形成とどのように関連付けるかについては、理解の格差がみられた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年次の必修であるため、キャリア形成への関心を広げ、充実した今後の学生生活につなげるよう学生をエンパワーしている点では、内容は評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講者の数が多く、受講生同士の意見の交換や講師とに質疑応答が難しいことが課題となった。また、他学部 of 学生も受講している中で、専攻科目とキャリア形成を具体的に関連付けて考える時間も不十分であった。今後は、学籍番号順に座席を決めるなどして、意見を得やすい環境を整備する。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	多様なキャリア形成について、自分の人生と結び付ける力はある程度身につけたものと思われる。情報を読み解く力を現実の生活の中で活用したうえで、多様な選択肢の中から自己決定する力をもっと身につける必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションⅡ	1	後期	必修	いいえ	63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 前期で学んだことを利用しながら新たな知識を身につけていく科目であるが、前期の授業である「グラマー・コンポジションⅠ」の習熟に大きな差があったため、既習事項もわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。 ② 新しく学んだことの定着を図るため、その表現を使って自分のことを英語で表現する機会を設けた。 ③ 毎時間復習テストを行い、学生への復習への意識を高めるとともに、学生の理解度を把握することに努めた。 ④ 復習テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については、毎回復習するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.3点であり、再試対象者は2名であった。概ね標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。到達度自己評価については、すべての項目について、若干名を除くすべての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していて、学生の自己評価も高いと言える。30分程度以上の予習を6回以上した学生は7割程度、30分程度以上の復習を6回以上した学生は3割程度だったので、学習量については改善が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、肯定的な回答がほとんどだったので、ほぼ目標は達成できたと思う。1名から4名の学生が否定的な回答をしていたのは、(3)説明は理解しやすいものであった、(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、(5)口頭、文書など、なんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、であった。(3)については、より丁寧な説明を心がけたい。(4)については、科目の特性上、十分な時間を取ることができないが、引き続き工夫して、学生がより参加していることを実感できるようにしたい。(5)については、毎時間かなりの時間を学生からの質問に時間をとっており、実際に多くの質問に答えているし、メールでの質問も受け付けているが、質問しにくいと感じている学生もいるかもしれないので、質問しやすい方法を工夫したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できた。予習や復習については、毎回具体的に指示したりするなど、学生が学修しやすいように工夫しているが、全員に徹底できていないことから、必要に応じて個別指導を実施したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習 I	1	後期	必修	はい	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生全体の中間的レベル～ややハイレベルを想定した目標スコアを設定し、TOEICの出題形式・傾向に即した実践的練習に重点を置いた。特筆すべき受講動機には「関心のある内容である」10.4%、「単位数を確保する」10.4%がある。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	目標スコア(550-600)を達成した学生は、全体の13%で8名に過ぎなかったが、例年の学生レベルを考えると、これだけの学生が550を超えたこと自体驚くことであるし、400台の学生も多くいて、今後の伸びが期待できるので。学生アンケートの「自分なりの目標を達成した」の平均値は3.3であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生アンケートの達成度自己評価の(2)(4)(6)の項目の平均値は、それぞれ3.8,3.6,3.6であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	TOEICを外部受験して提出することが評価の一部となっていたが、確認を促したのに、氏名を書き忘れていた学生が2名いたのが残念であった。個人情報の観点か ら全員にその証明書を見せて、個人を特定することができなかったのも、今後は、回収した直後に教師が確認したいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	使用したテキストの補助教材も充実していて、全体としては満足のいく授業を行えたと思う。できることなら以前のようにもっとTOEICのコースが細分化されていれば さらに学生のニーズにあった授業が行えると思う。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "Communicate Abroad" from Cengage which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in the CHieru e-learning programmes for developing general skills. They also participated in our annual Zion Cup English Contest, preparing a speech, practicing it, and trying to achieve success in the department-wide contest.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 68% to 92% with an average of 75.1%. In CHieru e-Learning, most students reached their monthly targets of 300 miles. For class speeches, all students prepared well and were able to present competent speeches to the class.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As in last year's classes, in this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were few problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, and students were able to make steady gains. The only area of concern in these classes is maintaining a constant and ongoing study discipline. Students often use a leaps and bounds approach, whereas small and steady gains will help them achieve much better language competency.□
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Our goals for next year include: 1. A greater focus on vocabulary building as a basic building block, 2. creating an ongoing skills programme so that students are studying more consistently through the semester, and 3. developing the online facets of the course more. We will also be switching over to a new textbook that will focus on developing their communication skills more.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	It was good to get back to a full staff roster, and we have mitigated most of the ill effects of that system through careful oversight and good teaching practice. We will have to plan this issue better in 5 years!
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course aimed to have the students gain a better understanding of situations they would encounter while studying abroad. The activities were centered on communication exchanges amongst the students, and provided them with the opportunity to role-play the various scenarios. The students appeared eager and participated fully in the activities.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The level of the students was higher than in previous years and this helped in bringing the overall scores to the levels seen in the results. Because of the higher motivation and skills held by these students, the course material may have proven too low for many of them. This would explain why they didn't rate the acquisition of the material as highly as expected.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The aims of the course were easily met by the students because of their higher inherent abilities, which were evident in the final results.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	This group of students did not bring out any problems with the course, other than the fact that the material may have been a bit on the easy side for many of them. This, however, helped the more academically challenged students to participate with more confidence and ability.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Overall, the course was a success, even though it may not have been challenging enough for some of the students.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into both Skills and Communication based learning. In this class, students used the textbook "Four Corners 2" (Cambridge) to practice 4 essential skill groups; reading, writing, listening and speaking. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. These exercises helped students review and reinforce their basic English skills.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 15%, class work 30%, homework and presentations 35%, and a final test 20%. Final grades were mostly in the 80-90% range.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Better use of supplementary materials and more student-teacher interaction would be an added benefit, if time allows.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	More detailed instruction on how to use class workbooks to encourage careful note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to complete class workbooks without the guidance of the teacher in order to save class time.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディングⅡ	1	後期	必修	はい	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was to help students increase their ability to read in English. This involved having students do regular timed reading practice in the classroom to build reading speed and confidence in reading. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read at least 15 books or around 150,000 words over 15 weeks. Reading process was tracked by recording word per minute rates for in-class reading, and by using the Moodle Reader system to record and track out-of-class progress.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and a couple of small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. Final results were similar to previous years. A small number of students failed the course and there were also some who failed due to a failure to attend the class.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As outlined in previous years, the course is quite demanding for the students, but the level of participation and commitment was generally high, and a clear understanding and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course. There were some issues with attendance, especially in the 1A class. Unfortunately the text used for the in-class reading activities was at a level that many of the students in the 1A class found to be too challenging. While I worked with the students to help them understand, it meant progress was slow and students were somewhat reluctant to engage with the textbook exercises.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The overall goal for future courses is to continue to work on increasing reading fluency, and self-efficacy for reading. A large part of this involves making things easier for students to access and read books at a suitable level, and for both the instructor and student to easily track students' progress. While quite a lot of time in class has been spent on building up reading speed, there are still issues with limited comprehension of texts for some of the lower-level students. Due to various issues surrounding the decisions as to who teaches the course, there has been different instructors leading the course in the 1st and 2nd semesters. While we have worked to coordinate things as much as possible, this could potentially lead to some issues with keeping consistency between teaching approaches in the 1st and 2nd semester. Hopefully this will all be sorted out next year. There has been a change to the textbook, and we will be working with different levels of the text for the A and B classes. We are also regularly updating the university library course readers collection to ensure the students have a large and varied selection of books to read out of class.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	The course is very much focused on attaining certain goals – reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. We are seeing similar outcomes previous years, but for some students, the focus on building comprehension is overlooked, as they try only to attain the numerical outcomes. Overcoming this kind of attitude is an ongoing challenge. Secondly, finding a way to help students who have trouble engaging in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes. A proportion of class time will be set aside for extensive reading to ensure all students are reading for at least some time per week. Finally, there will be a continued focus on helping students set realistic goals and plan their reading homework effectively, which seems to be having some success.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修A	1	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は人文学部の2学科共通の科目であり、夏季にドイツの大学で学び、交流することを柱とした。それも含め、科目で取り組んだことは具体的に以下の3つである。 ①夏季に渡独するまで、ドイツの政治、経済、社会、文化などを教室で俯瞰した。ドイツ語の基礎も教え、渡独前に複数の学生がドイツ語検定の5級に合格してくれた。 ②ドイツでは午前中は大学でのドイツ語の授業を受講した。そこでドイツ語を深めた。午後からは自由時間であったが、受講生達は思い思い過ごした。ドイツ語だけでなく、英語でもほかの国から来た学生や現地のドイツ人達と交流することができた。 ③ドイツと隣国チェコに行き、これらの国々における観光のあり方についても直に学ぶことができた。このように、ドイツ語に加え、英語、観光のどちらも研鑽することができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本紙は英語学科側のものについて書いている。当科目の受講生は12名であり、学年としては4年生1名、3年生2名、2年生4名、1年生5名であった。4年生は進路にばかり、ドイツでの研修に来れず、代替レポートも時間の関係で提出できずに「不可」となってしまった。1年生の1名も最終レポートの不提出などにより「不可」となってしまったが、残り10名は単位を取得してくれた。 授業評価アンケート(回答者7名。以下同)によると、図書館の利用について、図書・雑誌の利用をした者、ならびに、CiNiiなど学術データベースを利用した者はゼロであった。一方、インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は5名であり、過半数となった。但し、CiNiiなどでの検索も含め、インターネットの利用については特に図書館を利用せずともほかの場所でもできることではある。 出席状況については、皆勤は3名であったが、4回欠席も1名いた(上述の研修不参加の4年生は含まず)。総じて悪くない出席状況であったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目はドイツでの研修を行なうことを大きな目的としていることもあって、受講者は相対的に情熱があり、勤勉であった。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「関心のある内容である」が6名(86%)となり、上段の科目担当者の感覚を裏付ける結果となった。「GPAをあげる」を選んだ者も1名いた。 「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて4以上であった(5点満点)。全体的に高得点をいただいた中で、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の3項目は4.7と最高点となった。これらの項目は科目の目的とも整合性があり、これら項目が高いポイントであったことは担当者冥利に尽き、喜ばしく思う。 なお、授業アンケートの自由記述欄にはいくつかの書き込みがあり、「ありがとうございました」、「お世話になりました」などもあった一方、担当者を「わがまま」と書いたものなどもあった。担当者はドイツ研修直前に突然の不幸に見舞われ、心理面で体調が思わしくなかったのであるが、受講生達はそれを知っており、かつ、ごく一部の者とは言え、こうした書き込みを行なった者もいた。多数決の恐ろしさを体験し、論理を最高価値とするドイツについて学んだとは思えないような形も見られたことは残念である。一部の者のみではあるが、せっかくの研修であったのであるから、ドイツ語だけでなく、ドイツの理念や価値観まで掘り下げて学んで欲しかった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講生達はこれまでの人生でドイツや欧州について、あまりなじみがなく、訪欧も全員が初めてという状況であったが、それだけに新鮮な気持ちでしっかりと授業に取り組んでくれた。 授業評価アンケートによると、予習については、0が1名、30分～1時間が4名、1時間半～3時間が2名となった。復習については、0が1名、30分～1時間が4名、1時間半～3時間が1名、3時間半～5時間が1名となった。復習に重きを置いていた本科目であり、受講生の取り組みの姿勢はこれに合致したものとなった。 ノートについては全員が取ってくれた。確かに取らなくては身に付かない内容ではあったが、こうした基本を疎かにせず丁寧にこなってくれた。「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」は取り組んだ者が3名と半数を下回ったが、日頃の復習だけでもかなりの分量があるため、3名だけでも取り組んでくれたことに敬意を表したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果を見よう。5項目あるが、3.3から4.1とバラツキが生じた。4.1であったのは「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」である。3.3は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」であった。3.3となった項目は、確かにドイツ語などを教える中で、この項目と合致しない時間もあったが、極力取るよう努力したつもりであり、相対的にとは言え、低くポイントが出されたのは残念ではある。 総合すると、受講者は総じて熱心に取り組んでくれはしたものの、ドイツというこれまでの人生で培った価値観が揺さぶられる存在に接した結果、適応に苦労してしまっただけでも一部ではあるが見られる結果となった。成績については、「秀」が3名、「優」が4名、「良」が2名、「可」はゼロで、「不可」1名となった。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	家根橋 伸子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度同様、単なる日本の歴史と文化地理に関する知識の受け取りだけではなく、アクティブラーニングを念頭に、自ら調べ、考えることを重点に置いた。初回において授業の目的と方法を学生に説明し、納得してもらったうえで発表等の活動回に入った。結果としては概ね効果的に捉えられていた。授業評価においても他の授業に比べると自主的学習に力を入れていたことがうかがえた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績は、32名中、出席不足による者を除いて、80%以上がS～Aの成績となった。 ②真摯な態度で課題・発表に取り組んでいる者が多かった一方で、いい加減な取り組みの学生も見られた。後者の学生を中心に、学習量や情報利用の点でやや教師の期待より不十分であり、B評価とした者も出た。 ③この授業では項目3で述べたようにアクティブラーニングを念頭に自主的に調べ、考え、発表においては単なる情報提供ではなく「内容に対する思考の深さ」「独自性」を重視したが、その点で十分ではない学生が見られ、②同様、B評価とした。 以上から、概ね目標は達成されたものの、「やや」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受け身の学習を想像していた学生側の受講動機と少々齟齬があるのではないかと考えていたが、肯定的に捉えられていた。結果として到達度の自己評価、自由記述からカリキュラムマップにおける本科目の位置づけと照らし、内容的に妥当であったと評価できる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方についての評価は概ねプラスに捉えられていた。しかし、質問の時間が十分でなかったとの回答が1名あり、4項で記述したように、ごく一部で取り組みがよい加減な態度の学生もあり、また学生の学習量、情報利用という点で期待した評価が出ていなかった。学生の取り組みを促すような新たな手立てが必要であると思われる。ただし、今回は単学科実施であったため、2学科合同授業であった昨年位比べれば人数が少なくなったものの、以前30名を超えており、アクティブラーニング型の授業を効果的に実施することは依然難しい課題ではある。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価は概ね高いものであったが、課題として以下の点が指摘できる。 ①上述したように、取り組みが十分ではない学生がいた。また、理解力に問題のある学生もいた。 ②これは近年多く見られる傾向ではあるが、全体的にも学生の学習量、情報利用という点で期待した評価が出ていなかった。手軽に手に入る情報で済まそうとする学生の姿勢が散見された。 以上から、学生の自主性を尊重するだけでなく、それを促すような新たな手立てがこれまで以上に必要であると思われる。単学科となったことから前年度と比して学生数が少なものの、アクティブラーニングのためには依然人数が多く、きめ細かな目配りができなかった可能性もある。しかし、できるだけこのアクティブラーニングを通した批判的思考の育成を目指す授業形態を続けていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension I	1	通年	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (19/59) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs. Two students did not pass the course and are repeating this year. This was simply because of non-attendance and was not confined to these activities but to all the courses they were enrolled in.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now received impetus, oversight, and recognition for the work they have done.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Our goals for the coming year are to move some of the focus from “attendance” to “performance” within all the activities we include in this course. Otherwise, we are very satisfied with the outcomes of this program.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Likewise with assessment, we need to be a bit more stringent in evaluating student performance so that instead of a straight grade for participation, we give greater focus on the degree of participation and follow up feedback and reporting.
------------------------------	---